巻頭特集

太子堂を守る人々

十日観音法要で聖徳太子像を開帳 桑名建築組合

全国各地にある太子講と呼ばれる組織は、建築に携わる職人の集まり。法隆寺や四天王寺を開基した聖徳太子を建築の祖として崇めています。桑名の太子講は、江戸時代に創設以来、幾度の災難を乗り越えてきました。

江戸時代から続いている由緒ある同業者の集まり

冠位十二階と十七条憲法の制定をはじめ、仏教の興隆に尽力した聖徳太子。一方で、法隆寺や四天王寺など、木造建築の建立にも携わったことで知られています。大工道具の曲尺を発明したという伝承が残るなど、建築技術の発展に大きく寄与したことから、大工、左官など、建築に関わる職人から崇敬を集めました。中世ごろからは、月命日である22日に太子講が執り行われ、建築や木工の守護神として聖徳太子を祀る太子堂が、各地に建立されました。

走井山公園内の走井山勧学寺（はしりいさんかんがくじ）境内にも、聖徳太子を祀る太子堂があります。勧学寺は、奈良時代の僧である行基（ぎょうき）によって創建。市内に現存するもっとも古い寺社建築であるといわれています。

もとは走井山の北麓にありましたが、織田信長の伊勢侵攻により矢田城が落城。その後、江戸時代に現在地へ移り、伊勢桑名藩主の松平定重によって再建されました。

「久波奈名所図会」走井山（長圓寺蔵）

市指定文化財の久波奈名所図会（くわなめいしょずえ）によると、桑名の地で太子講が始まったのは、江戸時代の明和年間（1764～1772）。旧桑名町の大工の集まりによって、再建された勧学寺の西側に太子堂が建立されたといわれています。

聖徳太子像を守りながら地域の文化にも貢献

昭和初期以降は、旧桑名町で結成された桑名建築組合によって太子講が運営されるようになりました。しかし昭和47年、太子堂内に祀られていた聖徳太子像が盗難にあってしまいます。「苦労して探してもなかなか見つからなかったのですが、東京都の古物商で発見されたんです」と話すのは、桑名建築組合の会長・南川公男さん。先代の会長が、残されていた台座を東京まで運び、足のかたちが合うかを確認した上で買い戻しました。

平成2年には、不審火によって太子堂が全焼。古い資料等を焼失してしまいますが、組合内のみならず、地域からも寄付を募り、翌年に再建しました。

こうして、トラブルを乗り越えながら大切に受け継がれてきた太子講。4月に行われた太子堂建立250年法要には、組合OBや家族も参加しました。

「昭和初期の最盛期には、旧桑名町の大工だけで130人以上の組合員がいました。現在は、市内全域に門戸を広げています」と会計を担当する松田敦司さん。5年ほど前からは大工だけでなく、電気工事業や板金工事業、設計士、屋根工事業など幅広い業種から参加を募るようになり、今年度は25人が所属しています。

平成27年には、桑名市で20年に一度行われる伊勢神宮の七里の渡し・伊勢国一の鳥居建て替え事業に、奉曳車班（ほうえいしゃはん）として参加。以降は毎年秋の初穂曳（はつほびき）でも荷締めを担当するなど、伊勢市との新たな交流が生まれています。昨年12月、東員町で発見された桑名石取祭の祭車の運搬にも貢献。技術者集団である長所を生かし、地域奉仕活動に取り組んでいます。

右／太子講の法被。聖徳太子が建立に携わったといわれる法隆寺の紋様をあしらい、下の図案は「大工」という文字をモチーフにしています

下／太子講を守り続ける桑名建築組合の皆さん。前列右から2人目が会長の南川公男さん、前列一番左が会計の松田敦司さん

1／節目の年ごとにつくられてきた組合員名簿の掛け軸。中央は太子像が盗難にあった昭和47年のもの、左は昭和初期のものと思われ、どちらも平成2年の火災を免れた貴重な資料です

2／太子講の大提灯にも、法隆寺の宝物「鳳凰円文螺鈿唐櫃」に使用されている紋様が見られます

3／太子堂に祀られている聖徳太子像。平成2年に太子堂が全焼したときも、奇跡的に焼失を免れました

桑名石取祭の祭車が発見された東員町に出向いて運搬作業を担当。この後、トレーラーに積み込んで市内まで運びました

勧学寺の十日観音法要で聖徳太子像を一般公開

太子堂の聖徳太子像が一般向けに公開されるのは年に2回。聖徳太子の命日である2月22日の法要と、毎年8月10日とその前後に勧学寺で行われる十日観音法要です。今年は8月9日と10日の2日間。両日とも桑名建築組合の皆さんによる解説を聞きながら、火災の後に、美しく彩色された聖徳太子像を観覧できます。

「地元の方でも、ここに聖徳太子像があることをご存知でない方は少なくないのではないでしょうか。ご開帳は1年に2度しかない機会です。ぜひ近くからご覧になっていただけるとうれしいです」と南川さん。

当日は平安時代後期の作といわれる県指定有形文化財の本像、木造千手観音立像が公開されるほか、江戸時代末期作とされる市指定文化財の仏足跡、大昔に龍が現れたという伝説が描かれた「水飲み龍」の天井絵図など、地域の豊かな歴史に触れることができます。

今後の課題は、関心を寄せる地域の人を増やし、昔から大切に守られてきた太子講の伝統を、さらに後世に向けて継承していくことと先を見据えます。

4／平成2年に全焼した太子堂を再建すべく、地域に向けてつくられた公示板

5／伊勢神宮の七里の渡し・伊勢国一の鳥居建て替え事業。翌月、七里の渡し・伊勢国一の鳥居建替実行委員会より感謝状が贈られました

十日観音法要

日時　8月9日（水）10:00～21:00ごろ
　　　8月10日（木）14:00～21:00ごろ
場所　走井山公園（桑名市矢田城山267）

文／藤原均　写真／桑名建築組合提供・中村圭作　デザイン／HANZO（GOZEN4JI ART WORKS）